

国際シンポジウム  
「カール・メンガーと自由主義の歴史的諸相」開催報告  
On the International Symposium  
“Carl Menger and the Historical Aspects of Liberalism”

山崎 耕一  
YAMAZAKI Koichi

社会科学古典資料センターが主催する国際シンポジウム「カール・メンガーと自由主義の歴史的諸相 Carl Menger and the Historical Aspects of Liberalism」は2004年12月18日(土)19日(日)の両日、一橋大学佐野書院を会場にして開催された。プログラムは以下の通りである。

第1日

開会式 (10:30~10:45)

基調講演 (10:50~12:30) 池田幸弘 (慶應義塾大学)

「On Handwritten Notes of Menger in His Grundsätze der Volkswirtschaftslehre」

<司会> 山崎耕一 (一橋大学)

セッション1 「オーストリア学派の基礎」 (14:00~16:10)

<報告> Karl Milford (Universität Wien) 「Mengers Problem Situation」

塘 茂樹 (京都産業大学) 「Menger and Böhm-Bawerk: The Interest Controversy」

<コメント> 塩野谷祐一 (一橋大学名誉教授), Harald Hagemann (Universität Hohenheim)

<司会> 八木紀一郎 (京都大学)

セッション2 「経済学と知識」 (16:30~18:00)

<報告> Kurt Leube (Hoover Institution)

<コメント> 江頭 進 (小樽商科大学)

<司会> 西澤 保 (一橋大学)

第2日

セッション3 「戦間期のオーストリア学派」 (10:30~12:00)

<報告> Harald Hagemann (Universität Hohenheim) 「The Austrian School in the Inter-War Period」

<コメント> 中山智香子 (東京外国語大学)

<司会> 池田幸弘 (慶應義塾大学)

セッション4 「ヴェーバーとオーストリア学派」 (13:30~15:40)

<報告> Keith Tribe (University of Sussex) 「Max Weber and the “New Economics”」

橋本 努 (北海道大学) 「Carl Menger and the Later Austrian School of Economics」

<コメント> 小林 純 (立教大学), 矢野善郎 (中央大学)

<司会> 西部 忠 (北海道大学)

ラウンドテーブル「メンガーと現代自由主義」 (16:00~18:30)

<司会> 西澤 保 (一橋大学), 中山智香子 (東京外国語大学)

開会式においては、このシンポジウムを発案された前副学長 清水啓典教授が挨拶に立ち、ゲストに歓迎の意を表すとともに、開催の意図を説明した。続く基調講演では準備委員の一人である池田幸弘教授（慶應義塾大学）が、シンポジウムのタイトルの趣旨と具体的な討論の方向を説明するとともに、現在復刻作業が進行中のカール・メンガー著『国民経済学原理』手沢本の著者による書き入れの学問的意義を明らかにした。午後からセッションに入り、プログラムに従って報告・コメント・討論が進行した。最後のラウンドテーブルでは、八木紀一郎（京都大学）、尾近裕幸（国学院大学）、Keith Tribe（University of Sussex）、清水啓典（一橋大学）、Kurt Leube（Hoover Institution）の各氏には司会者があらかじめ、それぞれにテーマを提示して発言の用意をお願いしており、八木氏は「Carl Menger and Historical Aspects of liberalism in Austria」、Tribe氏は「Ordoliberalism and Monetary Policy」と題するペーパーを用意された。しかし上記の諸氏以外にも会場から活発な発言があって議論は大変に盛り上がり、最後は予定時間を15分ほど超過したところで司会者が「発言があった問題を議論し尽くすにはもう一度新たなシンポジウムを開かなければならないくらいなので、今回はとりあえずここまで」と強引に打ち切らねばならないほどであった。シンポジウム参加者は40名を超え、予想以上の盛況であった。なお、このシンポジウムは前記の池田教授のほか、中山智香子助教授（東京外国語大学）、塘 茂樹教授（京都産業大学）西澤保教授（一橋大学）の各氏、および古典資料センター教授の山崎が準備委員となって企画・立案を行なった。多大なご尽力をいただいたこれら諸氏、ならびに報告・コメント・司会を引き受けてくださった方々、当日会場で討論に参加してくださった皆様のすべてに、この場を借りてお礼申し上げたい。

またシンポジウムに先立ち、17日（金）の午後1時から4時半まで、古典資料センター閲覧席においてカール・メンガー文庫の展示が行なわれた。「メンガー経済学の成立」「古典とのつ



なかり」「メンガールの弟子たち」「外国への影響・伝播」「メンガールの蔵書から」「シュンペーター文庫より」の6部から成り、古典資料センターが持つメンガール文庫から39点、附属図書館が持つシュンペーター文庫から3点、計42点のそれぞれに貴重な書籍およびカール・メンガールを記念したメダル（アメリカの経済学者ポール・スウィージーからメンガール文庫に寄贈されたもの）が展示された。半日だけの展示ではあったが、シンポジウムに参加する4名の外国人ゲストをはじめとして計60名を超える入場者があり、こちらも盛況であった。

（社会科学古典資料センター教授）